

開教 80 周年に向けて 記念事業 実行委員会からの発表 第 2 弾！

5月4日、教祖様御生誕祭 第2部 奉祝行事では「開教 80 周年に向けて」の発表が行われました。石川秀幸氏、栗野弘靖氏が自己紹介を兼ねて体験を語り、また中期計画については、勝俣佑介氏が発表しました。ここではその内容を掲載します。進行役は小坂裕美子さん。

1 体験の紹介 信念を持っておさがりすること、信仰態勢と家族信仰の大切さ

体験 1 石川秀幸氏

私は子供の頃、正義感が強く、周囲にいつも友達がいきました。スポーツが得意で、足が速く、野球やサッカーなどをして遊ぶ活発な子でした。

小学校高学年になると、御守様を着けていることや予防接種を受けないことなどを友人にからかわれるようになり、教会から足が遠のくようになりました。

また、同じ頃、父が連帯保証人になっていた会社が倒産。借金を背負うことになり、父が経営していたプレス加工業も倒産してしまいました。

家の環境が激変し、家族間もギスギスするようになって、私はたまり場になっていた友人宅で過ごすようになりました。そして暴走族に入り、親に対して抑えていたものを吐き出すようにバイクで走って、けんかをする日々を送っていました。どんどん悪の道に入り込み、どうしようもなくなったとき、**教祖様**に自然に手を合わせていました。その頃、母は私を心配して必死に祈念していたようです。

家から遠く離れた農家で1年間仕事をした後、自宅へ戻って御神語奉唱をするようになり、頭部隆起現象を賜りました。価値観が大きく変わって、教会に日参するようになり、御奉仕をさせていただくようになりました。そして教会の方より奉職の話を頂き、迷いましたが、石川家の因縁浄化を願い、そして母の思いを受けて奉職しました。

その後、平成10年に母は過酷な労働と人間関係のストレスからガンを患い3カ月の余命宣告を受けましたが、母は医薬に頼ることなく、**教祖様**に一切をお任せし、毎日7時間、御神語奉唱を続けました。私も奉職者として母を死なせることはできないとの思いで、一緒に祈念を続けると、母のガンは全治するという奇蹟を体験しました。以前、両親は別居していましたが、今は仲良く暮らし、幼少期のような家族に戻り、心から感謝しています。



現在、祭司を務める石川氏



ドラム隊・鼓笛隊の指揮をしていた栗野氏



石川氏が青年当時、日参していた旧名古屋教会



栗野氏の楽しい思い出だった青年のバザー御奉仕



石川氏、栗野氏ともに、御奉仕を通して御神光を頂いた

体験 2 栗野弘靖氏

私は小中学生の時、少年部の活動とサッカーや空手などの習い事をしていました。小学校のサッカークラブで左手中指を骨折、右脚アキレス腱の損傷など、よく怪我をしましたが、御供物をたくさんいただき、お参りをして良くしていただきました。

また、中学一年の時、サッカーの試合中、左前腕骨を骨折してしまいました。手術するか否か2週間の経過観察中、毎日5時間、御神語奉唱をしたところ手術を免れ、また一気に学業の成績が良くなりました！

工業高等専門学校を卒業後、大手企業のグループ会社に就職。危険な化学薬品を扱う岡山の工場に配属されました。寮生活で、毎日多忙なうえ外食も多く、信仰生活がおろそかになり、入社から3カ月後、双極性障害、逆流性食道炎になって、体重が1カ月で20kgも落ち、心身共につらい日々を送っていました。我慢の限界を超え実家へ連絡すると、家族でお参りをしてくれました。また、教会の方より広島の遙拝所に誘われ、必死の思いで参列したところ、御神光を頂いて茶菓子が食べられ、久しぶりに空腹を感じたのです。さらにお導きで休職でき、実家へ戻って万寿山で3カ月

御奉仕させていただき無事回復することができました。

その後、転職して老舗の洋食屋へ就職したものの、過酷な職場環境で心身共に疲弊し、3年半で退職しました。再び実家で過ごしていた時、ランニング中に障害物につまずいて右腕を骨折。そして再び万寿山で御奉仕の機会を頂き、その際、教会の方から声を掛けられ、奉職させていただきました。

奉職後、良縁を賜り子宝に恵まれましたが、娘3人それぞれ骨折しており、私も昨年階段から落ちて5回目の骨折をしました。この骨折はかなり重症で、頭や首を打ちつけていたら命も危ない状態でした。栗野家には事故死の先祖が複数いることは把握していましたが、霊への思いやりや真剣さが足りず、中途半端な信仰では霊に通じないことを実感しました。因縁浄化の機会を頂いたことを、心から感謝しています。



2 中期計画 勝俣佑介氏 スローガン「信者・事務局がお互いを尊重して心ひとつになって御聖業を完遂しましょう」

本年は中期計画2年目で、そして今年から、開教80周年の記念事業実行委員会も立ち上がりました。

令和9年に、神霊教は開教80周年を迎えます。周年大祭は節目の年であり教団にとって大変重要な年です。

教団のあるべき姿について、「開教80周年の周年大祭を信者・事務局・役員が心ひとつにお祝いさせていただける態勢が整っていること」、「**教祖様**御講演会が全国各地で開催され、信仰の輪が広がること」、「信徒役員・事務局が次世代に引き継がれ、青壮年層が活動の中心になる準備が整っていること」の三つを挙げています。

さらに方針1「内部充実を推進し、信仰に感動を！」では、人にお知らせをするためにもまず、信者さんの信仰心が深まり、奇蹟を体験することから始まります。その根本となる部分として、御教えを学び、体験をたくさん聞

くことが大切です。

方針2「心ひとつに布教活動に取り組もう」では、全国各地で**教祖様**御講演会が開催され、さまざまな布教を行い、**教祖様**の御神光を世の中に広げることを目指します。

方針3「各行事を盛り上げ、開教80周年へつなげよう」では、令和9年度の**教祖様**御生誕祭が開教80周年記念の年のスタートとし、それぞれの大祭にてコンセプトを策定し、取り組んでいきます。**教祖様・教母様**にお喜びいただくため、私たちは周年大祭の年までに、信仰の基本にのっとり、アンテナを磨いて受入態勢を整えましょう！そして開教80周年を感謝と喜びでいっぱいのにしましょう！